

<農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例>

○持続的生産活動を通じた多面的集落機能の維持

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道北見市 <small>きたみし</small> 留辺蘂町 <small>るべしべちよう</small> 温根湯 <small>おんねゆ</small>			
協定面積 263 ha	田	畑 (22%) 小麦・豆・馬鈴薯・てん菜	草地 (78%) 牧草	採草放牧地
交付金額 819万円	個人配分			50 %
	共同取組活動 (50%)	集落の管理体制に係る経費		3 %
		農業生産活動等		11 %
		農業生産活動等の体制整備		36 %
協定参加者	農業者79人、牧野利用組合1、鹿柵管理用組合1			開始：平成14年度

2. 取組に至る経緯

当集落は畑作を中心とした畑作・野菜・酪農の複合経営地帯であるが、経営者の高齢化や後継者不足が課題となっており、集落内全体の労働力不足と耕作放棄地の発生が懸念されている。このため、第2期対策では、経営の効率化をめざした機械の共同利用の拡充、環境保全と農村景観の形成に向けた廃農機具等の処分や景観緑肥の作付け、農地の適正な保全のためにエゾ鹿侵入防止策の維持管理を集落全体で行うなど課題解決に向け多様な取り組みを行ってきた。第3期対策については、これまでの取組内容を精査し、持続的な農業生産活動を通じ集落の持つ多面的機能の確保を図ることとした。

3. 取組の内容

- ・農業生産条件強化のための取組

機械の共同利用による土壌改良資材の投入面積の増加とコスト低減をめざす。

- ・農用地等保全体制整備の取組

食害防止のためのエゾ鹿侵入防止柵の点検、補修などの維持管理

- ・農村景観の整備

観光地である温根湯温泉の周辺地域のため、廃農機具等の回収を実施

- ・農業生産活動等の継続に向けた活動

粗飼料給与を補完する松山・大和牧場の維持管理



【土壌改良材の投入】



【エゾ鹿侵入防止柵の維持管理】

【集落の将来像】

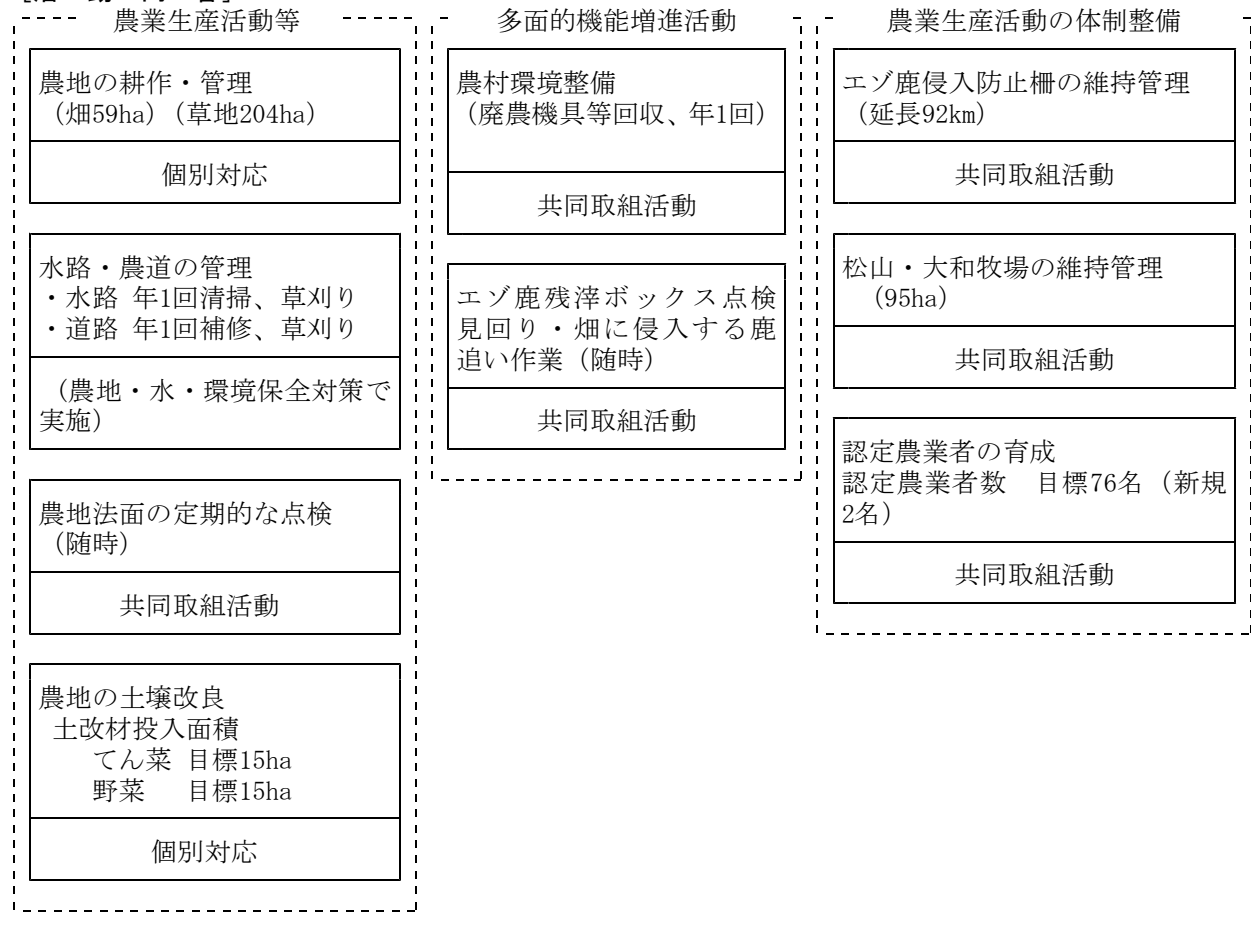
- 農業経営に意欲のある担い手の育成確保を推進する。
- 農業生産条件の強化のため、機械の共同利用による土改材投入コスト低減をめざす。



【将来像を実現するための活動目標】

- 認定農業者の育成 76名（新規2名）
- 土改材投入面積 てん菜 現況H22: 5.0ha、H26目標:15.0ha
野菜 現況H22:10.0ha、H26目標:15.0ha

【活動内容】



4. 今後の課題等

エゾ鹿侵入防止柵を設置しているが、依然として農業被害が発生しており、域内においてもハンターの高齢化が進み、今後減少するおそれがあるため、農業者の危機感も増大してきた。くくりわなは被害軽減に有効な自衛手段であることから、狩猟免許取得の機運が高まり、農業者の要請を受けた北見市留辺蘂総合支所産業課が道へ「狩猟免許出前教室」開催の申請を行い、平成23年1月に集落内で開催された。

【第2期対策の主な成果】

- 機械の共同利用（飼料作物H17:26ha、H21実績:59ha・牧草収穫H17:19ha、H21実績:72ha）
- 認定農業者の育成（H17:63名、H21実績:76名）
- 廃農機具等の処分（H17:未処分19戸、H21実績:未処分0戸）